



一般社団法人 **日本LD学会**  
Japan Academy of Learning Disabilities

# 会 報

第115・116号  
合 併 号

事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F

URL <https://www.jald.or.jp>



- ・巻頭言：「支える側」を支えるために
- ・第29回大会（兵庫）開催報告
- ・第29回大会（兵庫）印象記
- ・第4回研究集会（富山）開催報告
- ・〈連続講座〉各地の発達障害者支援センターの取り組み Part II 11
- ・〈連続講座〉新学習指導要領時代における学びの多様性を生かすための一貫した支援
- ・PATIO ～実践の最前線～



## 「支える側」を支えるために

広島大学大学院人間社会科学研究科教育科学専攻  
教師教育デザイン学プログラム・国際教育開発プログラム

川 合 紀 宗

新型コロナウイルス感染が流行し始めて1年余り。しかし、世界中においてこのウイルスは依然として猛威をふるい、一向に衰えを見せていない。医療従事者はもちろんのこと、教育・療育・心理・福祉・行政・就労支援等の領域における支援者の皆様、家庭で障害のある子供や大人を支えている保護者や家族の皆様、いずれの「支える側」の立場にある人にとっても、先が見通せない中、緊張下での勤務や生活が強いられていることであろう。

障害のある子供は、そうではない子供以上に配慮を要することが多く、医療的なケアが必要な子供や基礎疾患のある子供もいれば、からだの健康状態は良好であっても、こころの健康状態が悪化している子供もおり、「支える側」は工夫を凝らしながら、障害のある子供や大人の感染防止や、彼らが安心して学習・生活できる環境整備に尽力している。

その結果、「支える側」は業務が増え、本人が自覚している以上に心身が疲労している可能性が

ある。また、対面による支援ができず、インターネット環境に恵まれない家庭への支援が不可能になる、支援を受けられない保護者や家族のストレスが増大する等の課題も出てきており、子供への直接的支援のみならず、保護者や家族への支援も困難になる、支援者同士の連携ネットワークが分断される等、「支える側」の支援疲れや子育て疲れが懸念される。

しかし、こうした状況下においても、インターネット環境に恵まれない人のために Wi-fi環境を提供する人や、保護者や家族、支援者同士がオンラインや対面でつながれる場づくりに尽力している人がいる。ただ、こうした「支え」も、「支える側」の Good Will任せでは持続しない。こうした「支える側」を支えるために、何ができるだろうか。「支える側」がこれまで行ってきた工夫や努力の経験談を、失敗談も含めてアーカイブ化し、公開することで、それを読んだ「支える側」の支えにはならないだろうか。最近いろいろと想像を巡らせている。